

取扱説明書

日本消防検定協会 検定合格品
差動式分布型感知器



自己保持機能あり

- ・ FDT113A-X
(1種・作動確認灯付き)
- ・ FDT213A-X
(2種・作動確認灯付き)

自己保持機能なし

- ・ FDT113A-N
(1種)
- ・ FDT213A-N
(2種)

ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
正しくお使いいただくために、内容をよく理解した上で
ご使用ください。

この取扱説明書はいつでもお読みいただけるように大切に保管
してください。

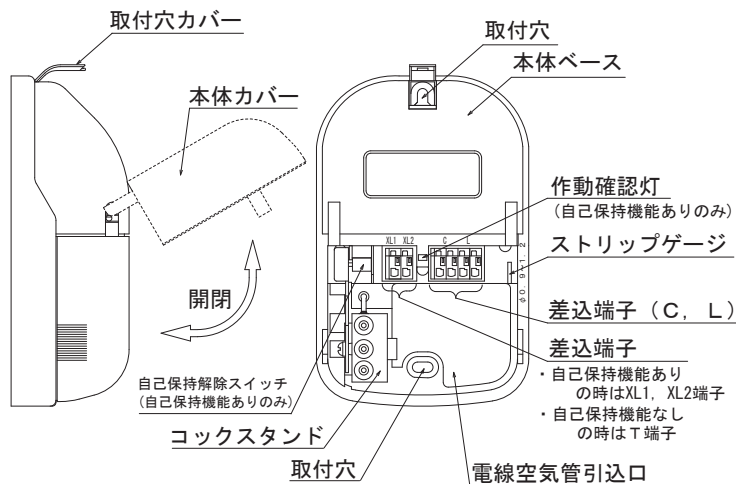
NOHMI 能美防災株式会社

[本 社] 〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3
TEL (03) 3265-0211 (大代表)
<http://www.nohmi.co.jp/>

1. 使用上の注意

- | | |
|-----------|--|
| 注意 | この製品は消防法に定められた「自動火災報知設備」の構成機器です。他の用途には使用しないで下さい。 |
| 警告 | 製品の「取付け」「調整」「点検」「メンテナンス」は法令によって定められた有資格者が必ず行って下さい。 |
| 禁止 | 本製品の「分解」「改造」は絶対にしないでください。 |
| 禁止 | 落下などにより強い衝撃を与えた製品は使用しないでください。 |

2. 各部の名称



《側面図》

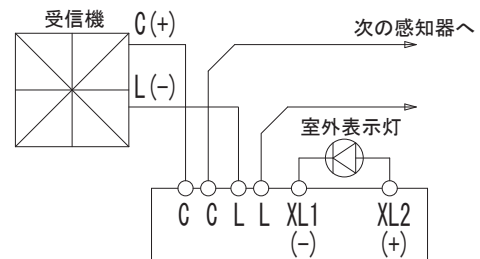
《正面図 (本体カバーを開けた状態)》

3. 仕様

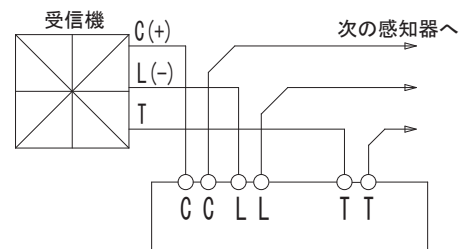
種 別	差動式分布型感知器			
型 名	FDT113A-X	FDT213A-X	FDT113A-N	FDT213A-N
感 度	1 種	2 種	1 種	2 種
国検型式番号	感第7～81号	感第7～82号	感第7～83号	感第7～84号
定格電圧・電流	DC30V, 75mA		DC60V, 100mA	
使用電圧範囲	DC15～30V		DC15～60V	
監視時消費電流	—			
作動確認灯	赤色発光ダイオード		なし	
C L 線の極性	無極性			
自己保持機能	あり		なし	
有電圧移報接点	XL1 (-), XL2 (+) 4V, 75mA		なし	
使用電線	φ0.9～φ1.2の単線			
接続可能受信機	当社製N-13回路およびB-10回路以降 (B-20, BS-20を除く) のP型受信機、R-12シリーズおよびR-1100シリーズ以降のR型用中継器		制限なし	
使用温度範囲	-10～50℃			
最大接続空気管長	100m			
三 定 数	接点水高半値	6.0mmH/2	12.0mmH/2	6.0mmH/2
	等価容量	119.8×10 ⁻⁶ cc/μbar		
	リーク抵抗	115.4kΩ		
最大接続個数	無 制 限			
質 量	260g			

4. 感知器の接続方法

本感知器は、感知器の作動で受信機に火災信号を送ります。
感知器と受信機間の外線接続は下図を参照してください。



《FDT113A-XとFDT213A-Xの結線図》
(室外表示灯を使用する場合)



《FDT113A-NとFDT213A-Nの接続図》
(T端子を使用する場合)

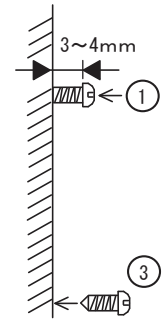
- | | |
|-----------|---|
| 注意 | FDT113A-XとFDT213A-XのXL1(-)とXL2(+)端子は有極性です。極性を確認して外線を接続してください。 |
|-----------|---|

5. 自己保持解除スイッチの働き (自己保持機能ありのみ)

- ・ FDT113A-XとFDT213A-Xは火災信号を保持する自己保持機能があります。ポンプ試験の継続時間測定などでは、自己保持機能を解除する必要があります。
- ・ この感知器は、コックハンドルが正常位置にある場合のみ火災信号を自己保持します。ポンプ試験などでコックハンドルを試験位置にすれば、自己保持機能は解除されます。

6. 施工方法

《 取付方法 》



この感知器の上側の取付穴はだるま穴になっています。

下記手順で取りつけてください。

①左図のように取付面からねじ頭を3～4mm浮かしてねじを取り付けます。

②感知器のだるま穴にねじを引っ掛けてねじをしっかりと締め付けます。

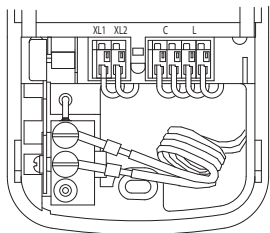
③感知器の下側の取付穴にねじを通して取付面にしっかりと締め付けてください。

注意

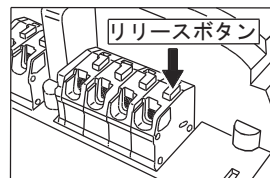
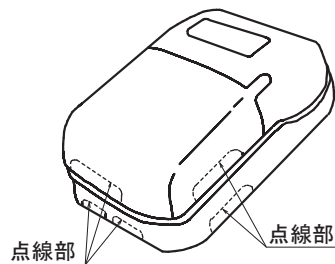


この感知器は垂直な取付面に確実に取り付けてください。垂直な取付面に対して5度以上傾斜させないでください。

《 電線および空気管の収納 》



- 端子はすべて差込端子です。
φ0.9～φ1.2の単線を使用してください。
また、線を外す場合は差込端子上部のリリースボタンを押しながら、線を抜いてください。
- 空気管などは、左図のようにドライバーの柄などで丸めて収納してください。
(最小曲げ半径5mm以上)



- 左図の点線部は、必要に応じてニッパーで切り取ることで引込み孔として使用できます。

7. 施工後の確認

施工後はポンプ試験などを行い、作動時間および継続時間ならびに空気管長を本体銘板の試験結果記入欄に記入してください。

8. 保守点検方法

点検は、消防法で定められた期間ごとに、点検有資格者によって行ってください。

9. 試験方法

試験は、ポンプ試験数値表の値を参照して行ってください。

注意



感知器の火災信号が関連機器に連動されている場合、事前に火災受信機の連動遮断などの操作を行ってください。

注意

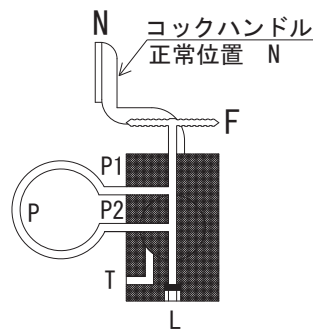


試験後はコックハンドルを正常位置に戻し、本体カバーを閉めてください。コックハンドルが正常位置にない場合、感知器は正常に動作しません。

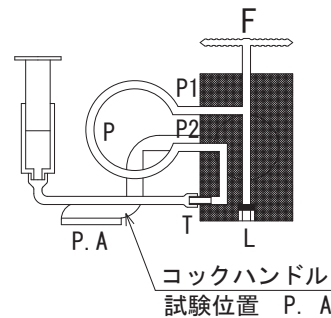
ポンプ試験数値表

空気管長 [m]	送気量 [CC]		時間 [秒]	
	1種	2種	作動時間	継続時間
～60未満	0.6	1.4	0.5～3.0	10～40
60以上～80未満	1.1	2.2	1.0～5.0	20～55
80以上～100未満	1.4	3.0	2.0～7.0	30～70

《監視状態》

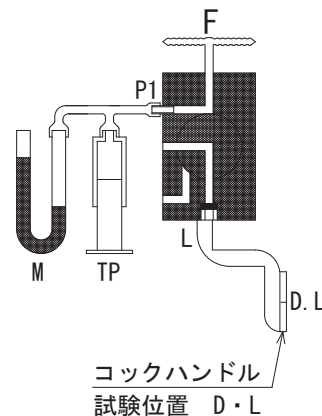


《P:ポンプ試験》



継続時間が所定の範囲外の場合、空気管とコックスタンドの接合状態を確認し、ダイアフラム試験及び流通試験を確認してください。

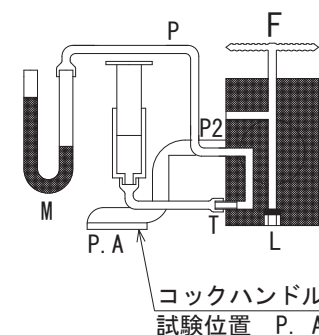
《D:ダイアフラム試験》



1. マノメーターに水を注入してください。(0～100mmの水位)
2. 左図のように接続し、コックハンドルをD.L.にしてください。
3. テストポンプよりゆっくりと空気を注入してください。
4. 感知器が作動したときの水位上昇が判定基準内であることを確認してください。

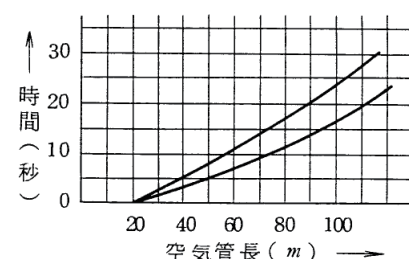
種別	規定値	判定基準
1種	6 mm	規定値の±10%
2種	12 mm	規定値の±10%

《A:流通試験》



1. マノメーターに水を注入してください。マノメーターの水位を左右均等にし、水位を0mmにあわせてください。
2. 左図のように接続し、コックハンドルをP.A.にしてください。
3. テストポンプよりゆっくりと空気を注入し、水位を100mmまで上昇させてください。
4. 水位が安定し、下がらないことを確認してください。
5. コックハンドルをNに戻して、マノメーターの水位が50mmまで下がる時間を測定してください。
6. 測定時間が、流通曲線内にあることを確認してください。

空気管流通曲線



(注意)

測定結果が流通曲線と非常に異なる場合や、水位が不安定等の流通度が悪い場合、感度に影響するため、空気管を調査してください。